



芭蕉翁記念館だより

もうすぐ夏休みですね。伊賀の夏休みの風物詩といえば、俳句の宿題ではないでしょうか。これにちなんで、今回は芭蕉さんが伊賀の門人土芳に伝えた言葉をご紹介します。

俳諧は三尺の童にさせよ。
初心の句こそたのもしけれ。(『三冊子』)

「三尺の童」とは7・8歳くらいの子どものことで、「俳句はまだ幼い子どもに作らせるのが良い。初心者の方こそ楽しみだ。」という意味です。「いくつになっても子どものような気持ちでよむことが大切だ。」という意味でもあります。難しく考えずに、思ったことを素直によめば大丈夫という芭蕉さんからのメッセージです。

皆さんのなかには、子どもの頃の宿題のせいで俳句に苦手意識を持っている人もいるかもしれませんが、この芭蕉さんの言葉を信じて、生誕380年にあたる今年の夏は、気軽に俳句に親しんでみてください。

◆夏の企画展「くずし字で楽しむ芭蕉」開催中

9月8日(日)まで

◆ギャラリートーク

7月21日(日)・8月12日(月・休)

午後1時30分～(入館料が必要です。)

【問い合わせ】

○文化振興課 ☎ 22-9621 FAX 22-9619

○芭蕉翁記念館 ☎ 21-2219



明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

能登半島地震における災害派遣からみえたこと —資産経営課—

2月下旬から3月上旬にかけ、能登半島地震災害支援のため、石川県輪島市で5日間避難所支援業務に従事しました。

1月1日の地震発生から約2カ月が経過していましたが、現地では上水、下水が全面的には復旧しておらず、仮設住宅は建設中といった状況で、避難者は長引く避難生活に慣れつつも、今後の見通しが立たないことなどに、不安を感じている人が多いように感じました。また、職場や学校が再開され、地震被害の状況を見る機会が増えた影響で、PTSDや睡眠障害を発症したり、蓄積した疲労やストレスから体調を崩す人も多数いました。

私が派遣された避難所では約170人が避難されており、ご近所などの面識のある人などで班を形成して共同生活を送られていました。そこで課題となっていたのは、「自分だけが苦しいわけではない

から」といった意識で心身の不調を隠し、ストレス性腸炎や腸閉塞など重篤な病気になるまで我慢してしまう人が多く、隠れてしまっている要支援者の把握が難しいことでした。避難所という共同生活を余儀なくされる環境では、誰もが不安や恐怖を感じ、強いストレスを受けています。そういった状況では、普段は気にならないことでも、もめごとになってしまうことがあります。普段から日常的なコミュニケーションを大切にし、自分の中の困りごとを隠さないでいられる人間関係づくりが欠かせないと改めて感じました。

人権が守られ、誰もが過ごしやすと思える地域づくりこそ、今後、伊賀市でも起こるかもしれない災害時にも生きてくるのではないのでしょうか。

最後に今回の震災でお亡くなりになられた方のご冥福と、被災地のいち早い復興をお祈り申し上げます。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ

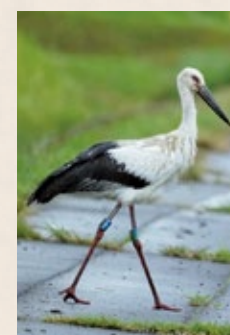
伊賀市の文化財 153

コウノトリの飛来について

近年、市内で「コウノトリ」の飛来が確認されています。

コウノトリの特徴は、まっすぐに長く伸びた太く黒いくちばしで、全身は白い羽毛で覆われ、尾にかけて黒い羽毛が混じります。コウノトリは、かつては日本各地に生息し、江戸時代までは幕府によって保護されていたのですが、明治以降乱獲されたり、戦時中は木材が大量伐採され、営巣環境を失ったりしました。さらに、ほ場整備・河川改修などにより湿地が消滅したり、農薬の使用により餌である生き物が減少したりと、生存環境は激変し、昭和46(1971)年に、日本で野生のコウノトリは絶滅してしまいました。

その後、保護・繁殖・放鳥に取り組み、現在では370羽程(令和6年3月現在)のコウノトリが野外に生息するところまで回復しました。貴重な大型水鳥であり、昭和31(1956)年に「文化財保護法」によって国の特別天然記念物(地域を定めず)に指定されています。また、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(以下「種の保存に関する法律」)でも国内希少野生動植物に平成5(1993)年指定され、保護されています。伊



個体識別のため足環のついたコウノトリ(伊賀市内で撮影)

コウノトリが生息するには、豊かな自然環境が不可欠です。コウノトリの飛来は、その地域の水と緑がとて

も豊かであることを意味しています。文化財課 ☎ 22・9678 FAX 22・9667

賀市周辺では、8月下旬から9頃に目撃情報が寄せられることが多いようです。コウノトリを見かけたら、次のことに気を付けてください。○コウノトリを驚かせないよう静かに見守りましょう。○観察や撮影は150m(車内からは100m)以上離れましょう。○2月から7月は繁殖期間です。巣に近づかないようにしましょう。○巣の近くを通る場合は、静かに立ち止まらずに通る場合は、静かに立ち止まらずに通ることは絶対にやめましょう。コウノトリは「文化財保護法」や「種の保存に関する法律」で保護されているため、無断で飼育や焼却・埋葬などの処分を行うことはできません。もし市内でけがをしたり、遺骸を見かけた場合は、文化財課まで連絡をお願いします。



IGAMONO セレクション

No.51



霧隠才蔵 純米生原酒

「霧隠才蔵」は微発泡のさわやかな飲み口と純米酒ならではの旨味を楽しめる、キレの良い後味が特徴のうすにごりの生原酒です。霧深い山里「伊賀」で育まれた才蔵の忍術さながらの卓越した技をじっくりとお楽しみいただけます。

しぼりたての生原酒をそのまま瓶詰し蔵元で冷蔵保管しているため、フレッシュなおいしさを損なうことなく1年を通して販売しています。

豆腐田楽やすき焼きなど伊賀を代表する料理をはじめ、味付けの濃いメニューとの相性は抜群です。



(株)菊野商店 代表取締役社長 菊野 善久さん

「秘蔵の国」伊賀は多くの可能性を含んだ地です。酒造りは古くから盛んで、現在も多く蔵元があり、そのいずれもが100年を超える歴史を持ち、個性豊かな日本酒を醸しています。弊社は創業明治41年、伊賀上野城下・

芭蕉翁生家近くの伊賀街道沿いにあり、常に丁寧な酒造りを心掛けている蔵元の製品を、吟味を重ねて取り扱っています。



【問い合わせ】(株)菊野商店 ☎ 21-0510

■伊賀ブランド推進協議会事務局(商工労働課) ☎ 22-9669 FAX 22-9695